



三番瀬は魅力がたくさん

三番瀬は、本市や船橋市などの沖に広がる浅瀬や干潟のことで、生き物の住処、漁場、レクリエーションの場など、さまざまな魅力があります。今号では、人と自然が共生できる里海を目指す三番瀬の魅力を紹介し

ます。 図 ☎318-3967臨海整備課



▲三番瀬はノリ漁も盛んです

三番瀬の魅力を活かした取り組み

魅力1 ボサ漁のイベント

ボサとは木の枝や竹を束ねて作る仕掛けのことで、水中に1カ月ほど沈めておき、小魚、エビやカニなどが住み着いてきたところを引き揚げて捕まえます。本イベントでは、本市の農業と漁業の連携により行われ、梨農家さんからもらった剪定枝を使い、漁師さんと協力してボサを作りました。

ボサを作成

梨の枝、笹などをどんどん集めて大きなボサを作りました。



みんなで楽しく枝を束ねたよ
ボサはすごく重かった



ボサを海に沈める

重くなったボサをみんなで運び、海の中に仕掛けました。どんな魚が集まるでしょうか。



ほんとにお魚
取れるのかな

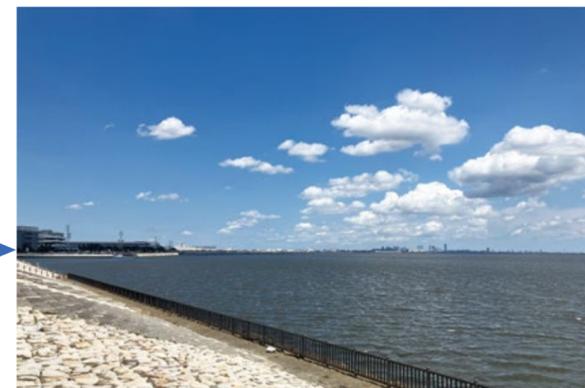
知っていますか 三番瀬の昔と今



▲直立護岸

もともと海は身近なものでしたが、水害から岸を守るための直立護岸を設置したことなどにより、長きにわたり海に近づくことができませんでした。

整備が徐々に進み



▲緩傾斜・階段護岸(令和3年10月完成)

みなさんが安全に海と親しむことができるように、護岸の整備が行われています。

塩浜2丁目護岸の後方には塩浜三番瀬公園があり、元日には三番瀬から昇る初日の出を見に、多くの方が訪れます。

他にも、塩浜1丁目には展望デッキや、令和3年に開かれた新しい漁港があります。現在市川漁港では毎月第1日曜日に朝市が開催され、市川産水産物の販売などが行われています。詳しくは、右記2次元コードで確認してください。



▲市川漁港



▲塩浜三番瀬公園



▲塩浜三番瀬公園から見た初日の出

ボサの引き揚げ

仕掛けてから1カ月後、ボサを引き揚げました。ギンポ、アミメハギなど、珍しい魚がたくさん取れました。



魚いっぱい
いるよ



この日取れた魚たち
ギンポ・アミメハギ・
マハゼ・ユビナガスジエビ・
シラタエビ など

生き物との触れ合い

はじめは魚を怖がっていた子ども、だんだん慣れて触れられるようになっていました。里海と触れ合う貴重な体験ができました。

取ったどお



魅力2 いちかわ三番瀬まつり

昨年の10月に市川漁港で初めて開催されました。大漁旗が掲げられた漁船が並ぶ華やかな会場では、親子漁場見学会や魚介類詰め合わせ直売、ホンビノス貝の販売、市の海産物を使った料理の販売と試食、ノリすき体験、三番瀬に関する展示などが行われました。

今年も10月に開催を予定しており、みなさんに楽しんでいただけるようイベントの規模を拡大して準備を進めています。



▲漁港に並ぶ大漁旗



▲魚介類詰め合わせ直売

魅力3 干潟の再生

市民のみなさんが直接海に触れられる場所を創出するため、塩浜2丁目に干潟を整備する計画を進めています。干潟の完成により、未来を担う子どもたちをはじめ、市民のみなさんに環境や漁業について、より関心を抱いていただくことを目指しています。現在は整備に先がけて、周辺海域の調査や測量を行っています。



魅力4 ブルーカーボンに関する取り組み

海藻や海藻などの生物によって、海中に貯留された炭素を“ブルーカーボン”と言います。今年度は、塩浜1丁目地先の三番瀬に海藻のアマモを移植する実験などを実施し、カーボンニュートラルの実現を目指しています。



▲ブルーカーボンの仕組み(詳細は左記2次元コードの「ブルーカーボン」PDFを参照)

